

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
A . Product	製 品	
<p>No.01 シェーバー</p> 	<p>最近の髭剃りは、持ち手がプラスチック製で、軽く造られている。一方で、地球上の全ての事象は1Gの重力を受けている。軽薄短小という言葉が過去に流行したが、ケースバイケースである。軽いと逆に持ち手に力が入る。程よく重いと、その重みだけで楽に髭が剃れるのである。環境をも考え合わせると、見直す時期に来ているのかも知れない。これに限らず中身が透けて見える流行の華奢なスケルトン製品は多い。</p>	<p>伊製 本体ホールド共真鍮製</p> 
<p>No.02 シャンプー類容器</p> 	<p>前述したように自然の法則に従うべきと思う。 左容器は今までの常識であるが、使う側からすると1回手をひねる事、粘性液体の場合、タイムラグがある事により、アクションが多い。右容器のように自然の摂理に適った製品を開発していくべきである。それと、シャンプー+リンスのように同時に使用する場合、グラフィック的に理解しやすい物であってほしい。凹凸があると、より分かりやすい。</p>	<p>逆立型容器事例</p> 
<p>No.03 カップ</p> <p>下写真は有田焼カップ。</p> 	<p>典型的な静止状態が美しいデザインである。唯、最後まで飲み干す時、カップが鼻にあたり、みっともない。指先も痛いものである。こういう焼き物に限らない訳であるが、大抵のものはそうである。見た目の安定感を望むか、使い心地を選ぶかであるが。つまり、精神的UDか機能的UDかである。デザインは自由であり、求める側が決める事であるが、左写真のような基本的形態が普及する所をみると、安定感を望む人が多いという事か。(右写真は、UD焼き物。参考。)</p>	<p>岳堂窯 福島県浪江町 手に熱く感じさせない湯のみ</p> 
<p>No.04 食器類</p> <p>一般的な皿</p> 	<p>皿に限らず、スプーンでもフォークでもそうであるが、見た目の美しさと使いやすさは必ずしも一致しないものである。美しいモノが食卓に並ぶと嬉しい。が、最後のすくいまできれいに使用できるわけではない。洗にくい。汚れが付き易いなど、デメリットもある訳である。不便であると思うがそれよりも現状では、見た目のデザインで利用者はモノを選ぶのでは。(確かに使い易さを追求すると形態的安定感がなくなる)</p>	<p>UDの皿(参考) 端部に返しがついている。</p> 
<p>No.05 はし</p> <p>一般的な箸</p> 	<p>割り箸が使用しやすいのは、断面が四角である事、摩擦抵抗が高い事により、食物を挟み易い点にあるが、普通の箸は、先がなめらかで、断面が細く丸い。よって挟み難い。時に片方がどこかへ行ってしまう。見た目は美しいが。 右写真はUD対応であるが、このような基本的形状は昔からあったわけで、特に目新しいわけではない。便利であるが、要は使う側の選択の問題であり、また、余り便利にしすぎて感覚が衰えるので一概に良いという訳ではないと思う。</p>	<p>UDソフトバリアフリー箸 障害者の為に開発されたもの</p> 
<p>備 考：日用品などの写真については、自宅にある、日常使用する一般的なものを挙げており、製品自体を非難する目的ではない。上記写真の内、一部、UD関連HPより抜粋。</p>		

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
A . Product	製 品	
No.06 CDケース 従来型中央固定ケース 	過期品の製品は、試行錯誤が多く、中々安定しないものである。CDケースもそのひとつで、固定の仕方がバラバラである。きっちり固定されていると取り出す時にCDがねじれるし、フリーであれば、ケースを開いた時点でCDがケースから転げ落ちてしまう。最近、CD-Rの10パックなどを買くと、中身は柔らかいビニール袋に納められている。これがベストではないが、何か良い収納方法があればと思う。	写真では分かりにくいですが、袋に挿入すると出し入れが容易である。 
No.07 はさみ 	はさみはある程度完成された形状であるが、例えば、右写真のように引っかかり取っ手を付けるだけで、より安定感に優れる。また、必ずしもシンメトリーではなく、持ち手が上に傾いていても良いと思う。 カッターについても、利き手重視であるので、考えていかなければならない問題だと思う。	理髪店用はさみ 
No.08 机とマウス 	マウスが出てから、キーボードを扱う機会が減少した。しかし、マウスと腕の関係はまだ改善されていないと思う。これは主に机側に問題があるのであるが、マウスを使用している間は腕が浮き上がった状態であり、無駄な力が入っている。長時間使用すると、腕のみならず肩から腰、目に良くない。楽に腕をのせるものがあれば良いのであるが。	最近市販マウスでも、その形状寸法で小さすぎる物がある。握るといふより、つまむという感じである。子供用なら理解出来るが、大人が使用すると無駄な力を指先に与えねばならず何と疲れる事か。
No.09 引き出し 	左写真以外にも引き出しの付いたものは、全てであるが、ものを入れていくと、当然先に入れたものが取り出しにくい。衣類などは皆、経験があると思われるが、面倒なので結局、奥底に入ったままになる。これ以外にも上からモノを補充するものとしてレストランなどの横型箸入れも気になる。果たして一番底の割り箸は使われる事があるのであろうか。	例えば、引出し機構を円形回転式に出来ないであろうか。平面式、立面式、様々な手法が考えられる。可変式で、モノの取出し容易になる機構を考えていきたい。
No.10 椅子 	椅子は、アートでもツールでも様々なデザインがあるが、IT使用時の面から捉えると、今の椅子ではまだ不十分と思われる。前述の机との関係性もあるが、疲れない椅子が必要であると思う。例えば肘掛が90度左右に回転し、肩や背中を刺激するような機能が付いていれば有難い。 (オーダーメイドでは身体に適合した製品が可能であるがコストの問題があり、大量生産に不向き。)	東海家具工業㈱ 重心移動で無理なく移動。 
備 考：写真資料は、自宅にある一般的な製品である。上記写真の内、一部、UD関連HPより抜粋。		

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
A . Product	製 品	
<p>No.11 テンキー</p> 	<p>ここで問題としたいのは、キーの配列である。一般に電話は上から1が始まるが、電卓パソコン系は下から1が始まる。過去のVHS対ベータのような技術的問題ではなく、利用者無視の単なる面子の争いである。当初は電話機が優勢であったと思うが、急激なインターネットの普及により、おそらく、パソコン操作系に収束されていくものと考えられる。</p>	<p>一般的な電卓</p> 
<p>No.12 携帯電話</p> 	<p>左写真は、今の日本のスタンダードである。折畳み式が流行すると、これに限らず全員右になれ方式で、この形に落ち着くのは、デザイナーの怠慢である。海外では様々な形がある。しかしながら、先行開発では、様々な試行錯誤が続けられている。右写真は、NEC UD研究グループによるプロトタイプである。現行型で、もうひとつ付け加えると、目に悪く、持ち手が不安定な、健康に良くない製品の典型である。</p>	<p>NEC UD 簡単メモリー携帯電話</p> 
<p>No.13 キーボード 和英混合型キーボード配列</p> 	<p>I B M型 キーボード配列 (参考)</p> <p>かな入力が不必要な場合、下図のように最小限文字配列で良いのでは</p> 	<p>今や、かな入力は少数派である。それならば、キーから、かなをなくし、アルファベット文字の大きな製品を出すべきである。その方が見やすい。混合型の場合は、シフトキーにより和英どちらかの文字が光る方式も考えられる。また、キーボード角度も斜めになるように考慮してほしい。</p>
<p>No.14 イヤホン 従来型イヤホン</p> 	<p>イヤホンは、年を追うごとに小さくなり、ウォークマンを境に急激に小さくなった。しかしである。からまるのである。外れやすいのである。小さい事が全てにおいて良いわけではないと思う。右写真は、プロトタイプであるが、このようにネック式固定タイプは、はずれにくく使いやすい。また、収納しやすい。しかしながら、いつも思う事であるが、今の世の中で一番普遍性のないモノは、電器機器であろう。過渡期であるが故で、いつ落ち着くのであろうか。</p>	<p>SONY MOCKUPS (2000年) メモリースティックウォークマン</p> 
<p>No.15 MOドライブ</p> 	<p>MOファイルは今のところ他の記録メディアと比較して、便利である。なぜ、周辺機器のままであるのか不明である。今は左写真のように横から挿入するのが標準であるが、製品自体が軽く出来ているので、今ひとつ安定感がなく、挿入しにくい。上から挿入出来れば、無駄な力が入らないと思われるが、改善してほしいところである。重心をもっと下部にしないと安定しないし、軽ければ良いというものでもない。</p>	<p>上からMOを挿入する方が容易</p> 
<p>備 考：上記写真の内、一部、専門誌、メーカーUD関連HPより抜粋。</p>		

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由		改良点・参考例など
A . Product	製 品		
No.16 パソコンケーブル 各種差込口 	最近のパソコンケーブルは、USB形が標準になってきており、その面では楽なのであるが、差込面の記号がまだ一部で統一出来ていない。上下左右がはっきりと分かる記号を施してほしいところである。また、形状がシンメトリーでないほうが、理解しやすい。ケーブル類は出来れば少ないほうが良いのであるが。将来的には無線式になるのでは、と考えられるが。		下写真 USB形ケーブル 
No.17 Tシャツ 	コンクリートや鉄には温度変化により、収縮作用があり、施工では適度に縁切りを行い、C oでは間に伸縮目地を施し、スチールでは間隔をあける。橋は、一方が自由端である。Tシャツは、襟首が使用すごとに生地が伸び、よれてしまう。右写真（分かりにくいですが）は、襟首中央に切れ目を入れ縁を切っている。これで製品の耐久性及び脱ぎやすい。後は、デザインのにもう少し工夫が欲しい所である。		襟首中央に切れ込み 
No.18 自転車 一般的自転車 	今の都市計画でのインフラ計画では、人or車であり、自転車は無視されているといってもよい。しかし、エネルギー危機、公害などの問題、近距離の移動に関して、自転車ほど便利なツールはないであろう。例えば、簡単に折り畳める事が出来れば、それだけ歩道の駐輪スペースを取らずとも良い。また、収納する場合でも非常に有効である。右写真は中央で折り畳む事が可能な事例である。他にも様々な手法がある。		折畳み型自転車 20インチ MTB 中央横折れワンタッチ式 
No.19 車のドア 	車に乗降する際、頭がぶつかるので、腰をかがめて無理な体勢で乗り込む事に疑問はないであろうか。ドアデザインは洗練されてきても、機能は昔からひとつも変化していない。フェラーリエンツォなどは、デザイン+機能向上に果敢な試みが成されている。ルーフまでドア切込みがあるので乗降性が向上している。機能ありきのデザインである。セダンやクーペが低迷する理由のひとつに乗降性があるのかも知れない。		フェラーリ エンツォ (2002) 
No.20 デジタルメーター ピアッツァ (社内デザイナー) 	80年代に一時的にD . Mが流行したが定着しなかった。左右の写真を比較してほしい。左は数値表示、右はグラフィック表示である。絵文字が移動するので、感覚的に理解しやすい。アナログ表示も実は感覚で捉えているから理解が容易なのである。(読み取るのではなく眺める違い)	ジウジアーロデザインによる ピアッツァ I . パネル (1981) 	M・ガンディーニデザインのアルファロメオ I . パネル (1976) 
備 考：上記写真の内、一部、専門誌、UD関連HPより抜粋。 / Tシャツ=ユニクロ / ピアッツァ=いすゞ製 注) D . M = デジタルメーター / I . パネル = インstrumentパネル (計器盤)			

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
B . Area・Space	場所・空間	
<p>No.21 キッチンの高さ</p> 	<p>キッチン、女性だけが使用するものではない。老若男女、障害のある人、様々な人が使うのである。今のシステムの高さは女性向けに設定されていると思うが、では子供はどうしたら良いか、背の高い男性、女性はどうしたら良いか。腰をかがめるのは非常に疲れるものである。キッチンに限らないが、高さを可変式にする事ができないであろうか。モノに合わせるのではなく、モノが人に合わせていくという事である。(洗面台では一部高さが可変式のものが商品化されています。)</p>	<p>写真は車椅子利用者用キッチン</p> 
<p>No.22 蛇口操作 一般的水洗</p> 	<p>節水は今の世の中常識であるが、以前として無駄な水を流している事でしょう。蛇口の機能に問題があるわけであるが。関係ないが、ピアノは、手でメロディとリズムを奏で、足で音の強弱を付けていく、普遍性のあるモノである。蛇口は何故、フット式が普及していかないのか。どこに問題があるのか、考えていかなければならないと思う。これは勿論、洗面台、浴室でも必要な事である。</p>	<p>フット式ペダル型操作 センサー式(参考)</p> 
<p>No.23 ドア</p> 	<p>なぜ、病院に吊引戸が多いのであるか。軽い操作で扱いやすい訳である。引き戸であると風の通しの調節も楽である。開け閉めの際、無駄なスペースを取らなくとも良い。ドアが全て良くないという事ではないが、車椅子、ベビーカーの人がドアの開け閉めをする姿を想像してほしい。どちらが機能的に容易であるか。(引き戸はレバーの操作が基本的に不必要) また、レバーの位置も今の高さで良いのか疑問である。</p>	<p>住宅一般型引戸</p> 
<p>No.24 玄関 段差(日本式)高さ 30cm</p> 	<p>靴を脱いで家へ上がる文化は、考えてみれば希少である。衛生的であり、精神的にも楽である。海外でも一部の人は、この日本式を採用していると以前聞いた事がある。唯一とつ問題があるとすれば、その高い段差である。これはフラットにすれば解決する事であるが、マンションによく見られる中途半端な段差が一番つまづきやすい。(1~5cm) この高い段差はベンチ代わりになり、靴を履きやすいというメリットがあるが、フラット式では横にベンチを配置すべきである。</p>	<p>玄関入口 室内</p> 
<p>No.25 北向き窓</p> 	<p>特にマンションの中間間取りに多いが、一方は光が入るが、玄関側の部屋は通常暗くて狭い。昼間でも照明を付けないと暗い訳である。一方で今、光ファイバーの技術が進歩している。実際に店舗装飾や公園に採用されている。これを住宅に応用すれば、自然太陽光が常時あたる訳である。電気節約にも有効であるが、現状ではコストの面で普及しないのは残念である。(光ファイバーは延長に比較して高くなる。)</p>	<p>光ファイバー(自然光)</p> 

備 考：上記写真の内、一部、専門誌、設備メーカーカタログ、UD関連HPより抜粋。

光ファイバーは、三菱レイヨン製。通常は店舗、モニュメント、サインなど、装飾照明用に使用される。

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
<p>C . Social Environment</p>	<p>社会環境</p>	
<p>No.26 H P の環境</p> <p>下HPはD振興協議会（参考）</p> 	<p>これは電子メールでも適用する事であるが、文章を画面横いっぱいにかかれると見づらい。また、読み込むのに非常に時間がかかるようなINDEXに作成されたHPほど、精神的に悪いものはない。さらに、中途半端な画面構成（横が長すぎたり、縦に長すぎたり）やたらとボタンが多かったり、英語表示。WEBデザインは基本的に自由であると思うが、それは読み手を考慮した上での自由であると思うのであるが。</p>	<p>WEBデザインは、IT製品と同様、まだ確立されていない、過度期であると思う。環境が洗練されていくと、時期に収束されていくと考えられる。また、UDに適応できるHPも可能になると思う。</p>
<p>No.27 DVD規格</p> <p>規格決定に際する技術的対立。購入者はどうすれば良いのか。</p> 	<p>次世代DVDは現状において、DVDフォーラムでは、東芝+NEC提案の規格を採用しようとしている。しかし、ソニー+松下など、9社が別な規格で製品開発を行なおうとしている。これもDVDに限らず、技術開発は大切なものであるが、利用者無視の現状は、どうしたものであろう。大極的な見地から使いやすいものをコーディネートしてほしい所であり、利用者に混乱を招くだけである。</p>	<p>過去に消えていったモノ、消えそうなモノ。（IT分野）カセット、ビデオテープ、ベータ式含む/5インチ、3.5インチFD/レコード盤/フィルム/電池/CD-RW/ワープロ/その他色々。</p>
<p>No.28 OS環境</p> 	<p>コンピューターが一般の人に利用されるようになって、20数年が立つ訳であるが、当初はBASICという言葉しかなく、それもメーカー間でさえデータ交換が不可能であった。OSの登場により、現在では、それがかなり改善されてきたが、今の問題はWindowsとMacとの間でのデータ交換及び、ウィルス対策である。インターネット、電子メールの普及により、今後さらなる環境改善の必要性が考えられる。</p>	<p>将来的には何らかのOS規格が統一され、データ交換が相互自由に交換可能となること、UDとしての理念になると考えられるし、また、その環境を期待したいところである。（過度期の製品の宿命）</p>
<p>No.29 車の電子操作</p> <p>近年の車は殆ど電子制御である。ウィンドウにおいても自力で開ける事は出来ない。しかし、ここに落とし穴があるのではないかと。事故時は電気の力は使えない。</p>	<p>右写真はステアリング機構の新提案プロトタイプである。勿論、電子操作（ドライブバイワイヤー）である。近年、様々な提案が成されている。但し、飛行機のように、第2、第3のセーフ機構がこれからは必要になるのでは。（電子<油圧<手動）</p> 	<p>2001年ジュネーブショーより</p> 
<p>No.30 色彩環境</p> 	<p>あまりにも日常的であるので、気付かないのかも知れないが旧国鉄時代に計画された、サイン計画は優秀なUDであると思う。言葉が理解出来なくとも、電車の色と案内サインが統一されていると非常に理解が容易で安心感がある。</p> <p>例えば、今の看護師の制服はピンクなど暖色系が多い。患者に安心感を与えるためであるが、様々な環境の色彩の設定は相対する関係性において、重要なデザインであると思う。</p> <p>（左図 マンセルシステム：物理捕色色環）</p>	<p>国鉄 国電サイン計画 S40年代 5方面作戦で電車色と共に設定</p> 
<p>備 考：上記写真の内、一部、専門誌、HPより抜粋。</p>		

現在の常識・意匠など	不 便 な 理 由	改良点・参考例など
D . Barrier Free	バリアフリー	
No.31 側溝溝蓋 	過去に木レンガ舗装について、ある自治体が街中で使用した所、女性から非難されていた。ヒールに引っかかり、つまづくのである。これは目地が1cm程度あるからであるが、使用する場所をよく考慮しないと思わぬ事になる。側溝溝蓋も場所によっては危険である。グラウンドでスパイク靴に引っかかる。街中では、ヒールや車椅子のタイヤが引っかかる。左写真はコストの面から一般的に使用されているモノである	既に様々な対応製品があるが、コストアップになるので、中々採用されないものである。発注者の意識改革を促していかなければならない問題である。
No.32 波打ち歩道 	左写真は、マウンドアップ型歩道（幅90cm程度）である。ここに無理やり視覚障害者ブロックを敷く。無意味な典型である。傾いた歩道を車椅子が通れば、転倒するであろう。このような狭い歩道は、右のようなフラット型が正解である。公共事業では、このような無理解の設計者、役人により、度々失敗する。ブロックが黄色である理由は、色盲の障害者の為であるが、他のブロックと同色調にしてしまう事もする。（将来的には、電子操作による誘導システムになると思う）	フラット型（歩道幅が狭い所） 
No.33 散策道 	左写真は、住宅地河川沿い桜並木道である。写真左側が川である。しかし、川を眺めながら散策することは木が邪魔になり、出来ないのである。しかも車道幅員が4mと狭く、歩行者は安心して歩く事さえ出来ないのである。典型的な高度成長期における車優先の都市計画道路である。右写真は、同じ環境での河畔緑道であるが、人優先であり車道幅員は4mであるが、ポイントに5m幅離合場所を設けている。	住宅地河畔緑道事例（筆者設計） 
No.34 横断歩道 	近年になって、パターンデザインがやっと世界基準に変更された。以前はくぼみに水が溜まり、スリップの危険性があった訳である。それはいいのであるが、まだ改善の必要があるのではないか。視覚障害者ブロックが一番危険な場所で、縁を切ってしまうのは、何故であるのか。また、依然として段差が解消されないのは、何故か。歩道にスロープを付けるより、車道が歩道のレベルに合わせるべきと考えられるが。（今の所、国道の横断歩道については、視覚障害者用の凸凹が施してある。）	車道 スロープ 歩道 
No.35 公共バス 	よく理解出来ない事であるが、鉄道においては欧州、米国を始め、殆どの国のホームは低く、乗降しにくい。乗り込む時はステップを使用する。TGVでもそうである。ホームの乗降レベルが同じ日本では、日常すぎて便利さに気付かないかも知れない。逆にバス、LRTなど、公共交通システムにおいては、その先進性が逆なのは、何故であるのか。社会環境歴史性、技術者と行政の考え方の相違であるのか。	伊製 P . ファリーナ + BMB社 

備考：以上、気付いた点において、挙げてみました。この他にも様々な事象があると思います。字が小さく、写真が見にくい点は、ご容赦下さい。また、これは違うのでは、この方が良いのでは、という事項がありましたら、ご指摘下さい。

インド数字の旅・・・資料出典：東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所HPより抜粋。

(<http://www.aa.tufs.ac.jp/i-moji/suuzi>)

インドにおける「ゼロの発見」あるいは「ゼロの発明」の話は、よく知られています。しかし「ゼロ」を含むインド数字の果たした役割はあまり知られていません。ここでは、インド数字の旅を簡単に紹介いたします。

1. アラビア数字とインド数字

私達が日頃、目にする数字には、一、二、三などの漢数字、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ などのローマ数字、1, 2, 3などのアラビア数字があります。この中で、言語の境界を越えて、現在世界で最も使用されているのはアラビア数字であることはいうまでもありません。実は、このアラビア数字こそが、インド数字の直系の子孫です。インド数字は、8世紀頃アラビアに伝わり、さらにアラビアから10, 11世紀頃、西ヨーロッパに伝わり、現在の姿になりました。アラビア数字 (Arabic numerals) という名称は、当時のヨーロッパ人が付けた名前ですが、それが現在でも使われているわけです。

アラビア語では、現在でも、この数字をインド数字とよんでいます。ややこしい話ですが、現在のアラビア語で使用する「アラビア数字」も、やはりインド数字の変種で、アラビアで独自に変化したものです。ちなみに、右から左に向かって書かれるアラビア文字ですが、数字は左から右に向かって書かれます。このように、インド系文字がインドから東南アジアなど東方に伝播したのに対し、インド数字はアラビアを経由してヨーロッパなど西方に伝わりました。

2. ゼロについて

アラビア数字、つまりインド数字を使用する記数法が他の記数法よりも格段に優れているのは、ゼロを利用した「位取り」が出来るからです。例えば、一万三千四十五と13045を比べてみて下さい。紙上で計算する加減乗除において、この「位取り」の威力は、他の記数法の比ではありません。

8世紀頃、インドからアラビアに伝わった「ゼロ」(サンスクリット語でshunya シューニャ)は、アラビア語でsifr スフィール「空(から)」と翻訳されました。このスフィールが、13世紀のはじめ、アラビア記数法(つまりインド記数法)が伝わったイタリアでラテン語化してzephirumとなり、最終的にはzeroとなりました。

一方、中世ヨーロッパの数学会では「ゼロ」を表すために、もとのアラビア語とほぼ同じ語、cifraを長く使い続けました。英語のcipherの語源はここから来ています。英語のcipherの持つ意味のうち「暗号、符丁」は、当時の一般の人々が「ゼロ」に対し抱いていた神秘や秘密なものへの驚きの名残であるといわれています。(以上、HPより抜粋)

以上、UDについての考察と不便なモノについて、勝手ながら意見をまとめてみましたが、説明文が長くなりそうな所もあり文章を省いているので、分かりにくい所や焦点が違うのではという所があるかも知れません。特に、文字や言語のUDはあまり語られた事がないのでは、と思いますので、この考え方で良いものか、果たしてUDに適合するのか、内容がまだ不十分であり、ぜひとも意見を伺いたい所です。後ちょっと気になるものとして、安全ピン(胸に付ける)は誰が考えても危険でしょう、針むき出しで。それから、単位の国際標準化です。(メートル法への移行問題。)それと見やすい書籍について(縦書右開きor横書左開き、字の大小、字体など)。ランダムに挙げてみましたが、こういうものは、きりがありません。唯、UD(BFを除いて)は、製品によっては、便利すぎてもだめだと思います。

UDの7原則は大切ですが、ある意味それに縛られすぎてもいけないような気もしています。これは、あくまで開発する上での理想とする方向付けを行なう指針であると思うので、やはり理想と現実のギャップがあるからです。また、これはUDだから使いましょうという問題ではなく、使用する側がどう感じるか、という事も大切であると考えています。